

## 研究分野と教員紹介 (医療科学研究科)

病態運動学分野

運動器障害



かわぐち こうたろう

川口 浩太郎 教授

kotaro@hyo-med.ac.jp

研究分野 運動器障害 (運動器理学療法学、スポーツ理学療法学)

研究テーマ

- ・エクササイズが身体に及ぼす影響に関する研究
- ・徒手治療に関する研究
- ・体幹機能に関する研究
- ・運動生理学的指標を基にしたエクササイズに関する研究

資格

理学療法士、専門理学療法士(運動器理学療法)、  
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー

- ▶ 博士(医学)
- ▶ 広島大学大学院 医学系研究科  
保健学専攻 修士課程 修了

### ・受験希望者へのメッセージ

臨床での疑問点を客観的指標に置き換えて表現することが、理学療法研究において大切だと考えています。日頃の疑問を明らかにしたいと自ら積極的に行動できる人材を求めています。ぜひ、本学大学院で一緒に学びましょう。



さかくち あきら

坂口 顕 教授

sakaguchi@hyo-med.ac.jp

研究分野 運動器障害 (物理療法・スポーツ障害)

研究テーマ

創傷治療促進の電気刺激療法、月経痛軽減のための電気刺激療法など、物理的エネルギーを用いた治療について、基礎的ならびに臨床研究を行なっています。子供のスポーツ障害の予防や足・靴に関する研究を行なっており、動画や静止画をデータ化し、さまざまな問題点を検証しています。

資格

理学療法士・専門理学療法士(物理療法)、  
日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー・アシスタントマネジャー、  
日本サッカー協会公認C級コーチ・スポーツマネジャー(GRADE2)

- ▶ 博士(保健学)
- ▶ 神戸大学大学院 医学系研究科  
保健学専攻 博士課程後期 修了

### ・受験希望者へのメッセージ

近年、物理療法はスポーツの分野や理学療法分野でその効果が見直されてきています。臨床と基礎を結びつける研究、臨床のなかの課題を解決できる研究など、一緒に学びましょう。



つかごし るい

塚越 累 講師

tsukagoshi.rui@hyo-med.ac.jp

研究分野 運動器障害 (運動器障害理学療法、バイオメカニクス)

研究テーマ

変形性関節症の進行要因の解明に向けて、動作分析や筋活動分析、筋機能評価などの手法を用いて研究を行っています。また、変形性関節症に関連して、ADL動作時の関節への負担を低減させるような動作方法や、人工膝関節置換術前後や高位脛骨骨切術前後のADL動作や筋活動動態の変化についても調べています。その他、高齢者の姿勢制御や動作特性に関する研究や、他機関と共同で脳卒中片麻痺者に対する歩行補助ロボットの介入効果に関する研究を行っています。

資格

理学療法士

- ▶ 博士(人間健康科学)
- ▶ 京都大学大学院 医学研究科  
博士後期課程 満期退学

### ・受験希望者へのメッセージ

修士課程では2年間で多くを学び、研究も行なうので大変ですが、その分得られるものは大きいと思います。ぜひ本学で一緒に研究しましょう。



たまき あきら

玉木 彰 教授

✉ a-tamaki@hyo-med.ac.jp

研究分野 内部障害 (内部障害理学療法学 (呼吸))

研究テーマ 研究テーマは『内部障害患者(呼吸不全や心不全など)の身体機能および生命予後改善のための新たなリハビリテーション戦略の確立』です。そのため対象者の骨格筋機能や身体活動量の関係、フレイル・サルコペニアの影響、呼吸・循環機能と運動耐容能の関係などさまざまな観点から検討し、予後に関連する要因を分析しています。

資格 専門理学療法士(内部障害)、専門理学療法士(基礎)  
認定理学療法士(呼吸)、臨床工学技士、呼吸療法認定士  
呼吸ケア指導士(上級)、サルコペニア・フレイル指導士

- ≫ 博士(医学)
- ≫ 兵庫医科大学大学院 医学研究科  
博士課程 修了

#### ・受験希望者へのメッセージ

大学院で得られる知識や経験、研究手法などは、必ず臨床に活かすことができます。少しでも研究に興味のある方は、是非チャレンジして下さい。我々と一緒にリハビリテーションの世界に新しい風を吹かせましょう。



かつの ともゆき

勝野 朋幸 教授

✉ katsunoa@hyo-med.ac.jp

研究分野 内部障害 (内科学 糖尿病・内分泌・代謝学)

研究テーマ 一つ目の研究テーマは、糖尿病治療薬の位置づけの明確化です。糖尿病治療は経口血糖降下薬、インスリン注射薬、GLP-1受容体作動薬など多種多様になっており、患者さんへのより良い選択が複雑化しています。其々の治療薬の詳細な血糖変動および長期的な合併症抑制効果などの研究を行っています。二つ目のテーマは、糖尿病患者における有酸素運動とレジスタンス運動の血糖変動に及ぼす効果を研究予定としています。

資格 医師、糖尿病専門医・指導医、総合内科専門医

- ≫ 博士(医学)
- ≫ 兵庫医科大学 医学部 医学科  
卒業

#### ・受験希望者へのメッセージ

わが国における糖尿病患者は急増の一途をたどっています。皆さんが糖尿病患者さんと接する機会はより多くなっています。糖尿病の病態および治療への理解は意義が大きいのはもちろん、糖尿病の研究に携わることは、その後の治療介入時における思考や考察も大きく変化させると思います。



まつざわ りょうた

松沢 良太 講師

✉ ri-matsuzawa@hyo-med.ac.jp

研究分野 内部障害 (内部障害理学療法学)

研究テーマ 私の研究課題は、腎臓病患者に頻発するサルコペニア・フレイルの病態を解明し、その予防・改善策を開発することです。サルコペニア・フレイルは筋肉量、身体機能および身体活動性の低下に特徴づけられ、腎臓病患者の生命予後を悪化させます。私は臨床研究を通じて、本研究課題に取り組んでいます。

資格 理学療法士、認定理学療法士(循環)  
心臓リハビリテーション指導士  
腎臓リハビリテーション指導士

- ≫ 博士(医学)
- ≫ 北里大学大学院 医療系研究科  
博士課程 修了

#### ・受験希望者へのメッセージ

腎臓領域において取り組むべき研究課題は山積みです。腎臓病患者にとって臨床的意義の高い研究の実践をめざして、一緒に頑張りましょう。



ひだか まさみ

日高 正巳 教授

✉ hidaka@hyo-med.ac.jp

研究分野 神経障害 (理学療法教育)

研究テーマ

理学療法の質向上のためには、養成教育、臨床教育、生涯学習が有機的に繋がっていくことが大切です。理学療法士の熟達化の観点から経験学習の方法論について取り組んでいます。また、褥瘡予防のためのポジショニングやシーティングを中心に地域高齢者に対する理学療法をテーマとして取り組んでいます。

資格

理学療法士、専門理学療法士(教育・管理理学療法)、  
専門理学療法士(生活環境支援理学療法)、  
認定理学療法士(褥瘡・創傷ケア)

- ≫ 博士(保健学), 修士(教育学)
- ≫ 神戸大学大学院 医学系研究科  
保健学専攻 博士課程 修了

#### ・受験希望者へのメッセージ

臨床現場で抱えている種々の臨床疑問を形式化し、研究計画を立案していくところからともに取り組んでいきます。これからの理学療法士の質向上について向き合っていこうという想いを有する方をお待ちしています。



もり あきこ

森 明子 准教授

✉ moakiko@hyo-med.ac.jp

研究分野 神経障害 (ウイメンズヘルス)

研究テーマ

妊娠・出産に関連したトラブルや更年期以降に起こりやすい尿失禁などの骨盤底機能障害、月経困難症などに対する理学療法のニーズが高まっています。理学療法士として女性の健康維持・改善に寄与できるよう、ウイメンズヘルス領域における理学療法の実践的研究に取り組んでいます。

資格

理学療法士、専門理学療法士(基礎)

- ≫ 博士(リハビリテーション学)
- ≫ 川崎医療福祉大学大学院  
医療技術学研究科 博士課程 修了

#### ・受験希望者へのメッセージ

ウイメンズヘルス領域の研究はまだまだこれからです。臨床現場で感じる疑問や効果を研究にしてみませんか。是非、一緒に頑張りましょう。



ながい こうたつ

永井 宏達 講師

✉ nagai-k@hyo-med.ac.jp

研究分野 神経障害 (予防理学療法学)

研究テーマ

研究テーマは「フレイルに対する効果的な予防とリハビリテーションの構築」です。高齢化が進む日本において、要介護状態を予防することは、とても重要な課題です。それには、機能レベルに応じた包括的なアプローチが必要になってきます。健康寿命延伸や、QOL向上も見据え、理学療法士の視点から研究を行っています。

資格

理学療法士

- ≫ 博士(人間健康科学)
- ≫ 京都大学大学院 医学研究科  
人間健康科学系専攻 博士課程 修了

#### ・受験希望者へのメッセージ

「研究は難しい」というイメージがあるかもしれませんが、ちょっとした作法とコツを知ること、臨床の疑問を研究に落とし込み、情報を発信できるようになります。ぜひ、一緒にやってみましょう。



さくま かおる

佐久間 香 講師

✉ ka-sakuma@hyo-med.ac.jp

研究分野 神経障害 (神経理学療法学)

研究テーマ 研究テーマは、「脳卒中後片麻痺者の歩行能力を改善するための運動療法の開発」です。脳卒中後片麻痺者が、どこでも簡単に行える歩行能力の向上に効果的な運動について調べています。

- 博士(人間健康科学)
- 京都大学大学院 医学研究科  
人間健康科学系専攻 博士後期課程  
研究指導認定単位取得後 退学

資格 理学療法士、専門理学療法士(神経理学療法)

・受験希望者へのメッセージ

理学療法に関する研究活動を活発にすることは、理学療法が必要と多くの方に質の高い理学療法を提供することにつながります。研究を通して社会に貢献したいと考えている方、一緒に課題解決に取り組みましょう。

人間活動科学分野 身体・認知活動



ふじおか ひろゆき

藤岡 宏幸 教授

✉ hfujioka@hyo-med.ac.jp

研究分野 身体・認知活動 (整形外科学)

研究テーマ 手根管症候群などの末梢神経障害、関節リウマチや変形性関節症による手や肘の変形、スポーツ外傷などに対する上肢の機能再建や障害予防などを研究テーマとしています。

- 博士(医学)
- 神戸大学大学院医学研究科

資格 医師 整形外科専門医 手外科専門医

・受験希望者へのメッセージ

運動器の機能再建手術後、および障害予防など臨床に密接に関連した研究を一緒に行いましょう。



ひらがみ しょうご

平上 尚吾 教授

✉ hiragami@hyo-med.ac.jp

研究分野 身体・認知活動 (身体系作業療法学)

研究テーマ 脳血管障害を中心として生活行為に障がいをもつ方々を対象に、上肢運動麻痺に対する介入方法の検証、生活行為中の姿勢制御や身体活動の実態解明などを研究テーマとしています。これらの研究を通じて、臨床実践において、より有効なアプローチ方法の構築をめざしています。

- 博士(保健福祉学)
- 岡山県立大学大学院  
保健福祉学研究科  
博士後期課程 満期退学

資格 作業療法士

・受験希望者へのメッセージ

リハビリテーション医療では解明すべきことが多くあり、その出発点は臨床での疑問や気づきです。みなさんが臨床で感じているであろう疑問や気づきを、本学大学院で科学的な観点から検討しましょう。



しみず だいすけ

清水大輔 講師

✉ da-shimizu@hyo-med.ac.jp

研究分野 身体・認知活動 (認知系作業療法学)

研究テーマ

研究テーマは「高次脳機能障害がある対象者やそのご家族に対する効果的なリハビリテーションの構築」です。高次脳機能障害の症状は、病院を退院してから顕在化したり、長期化することによって多くの生活に支障をきたします。高次脳機能障害がある方やそのご家族にとって、少しでも役に立つ研究をしていくことを目指しています。

資格 作業療法士

- 博士(保健学)
- 神戸大学大学院
- 保健学研究科 博士課程修了

・受験希望者へのメッセージ

高次脳機能障害は症状の解釈が難しく、介入にも難渋することが多いかもしれません。臨床での疑問や悩みを科学的な観点で整理しながらちよつとづつ、前に進めて解決への糸口を一緒に探っていきましょう。



たなか よういち

田中陽一 講師

✉ yi-tanaka@hyo-med.ac.jp

研究分野 身体・認知活動 (身体系作業療法学)

研究テーマ

主な研究テーマは「疼痛」で慢性疼痛患者の評価や介入法について研究しています。痛みはQOLと密接に関係する問題です。医療職者として、痛みを持ちながらもより良い生活が送れるよう支援していきたいと考えています。他にも脳損傷後の自動車運転支援や運動麻痺手の使用頻度に関する研究にも取り組んでいます。

資格 作業療法士、認定作業療法士

- 博士(健康科学)
- 畿央大学大学院健康科学研究科
- 博士後期課程修了

・受験希望者へのメッセージ

何事もまずやってみる！そんな行動力を全力でサポートします！本学で科学的に物事を考える基礎を学び、皆さんを必要としている方々や社会に貢献できるように一緒に頑張ってください。

人間活動科学分野 精神活動



やまだ たいごう

山田大豪 教授

✉ tayamada@hyo-med.ac.jp

研究分野 精神活動 (精神系作業療法学)

研究テーマ

精神または発達に障がいのある方を対象に、心身機能、活動や参加の評価・治療、生活支援に関する研究

- ①障がいのある方の主観的ウェルビーイング(Subjective Well-Being:SWB)に関する研究
  - 1) SWBと日常生活や社会生活との関連
  - 2) SWBと年齢の関係
- ②作業療法での関わり方の違いが、精神機能や自律神経機能にどのように影響しているのか

資格 作業療法士、認定作業療法士

- 博士(医学), 修士(学術)
- 大阪教育大学大学院
- 教育学研究科 修士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

リハビリテーションは、対象者の心身を良好に改善させ、目に見える形で社会に貢献できる学問分野です。臨床で蓄積した価値ある膨大なデータの一部を、一つ一つ、楽しみながら、好奇心をもって吟味していきましょう。



まつい とくぞう

松井 徳造 教授

tokuzo\_matsui@hyo-med.ac.jp

研究分野 精神活動 (精神医学)

研究テーマ

身体醜形障害についての、DSMやICDにおける診断学的な位置づけの変遷とその鑑別診断について調査研究を行っています。この分野は、妄想性障害や社交不安障害などの異動や重複が再三議論されてきた重要な分野です。さらに、近年は形成外科など近接領域におけるアピアランス(外見)の問題とも関連しており、他領域との連携も重要な方向性となってきています。今一度、症候学の視点から精神病理学的な検討を加え、またエビデンスのある治療の方向性について検討を行っています。

資格 医師

- 博士(医学)
- 大阪市立大学大学院 医学研究科 博士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

精神医学における診断学上の位置づけと鑑別診断については、ICDとDSMでも異動がありますが、不安障害とその関連疾患の診断のプロセスについて厳密な検討を加えます。精神症候学や精神病理学的な視点が求められます。



ありよし まさのり

有吉 正則 准教授

ariyoshi@hyo-med.ac.jp

研究分野 精神活動 (発達系作業療法学)

研究テーマ

家族全体の社会における活動と参加を支援するために、医学の生物学的システム、心理学のパーソナリティシステム、社会科学の社会的システムの3つの視点から、ライフステージに沿った作業療法支援を体系化する研究を行っています。

資格 作業療法士

- 博士(作業療法学)
- 東京都立保健科学大学大学院 保健科学研究科 修士課程 修了

・受験希望者へのメッセージ

社会が急速に変化・多様化することによって、臨床現場にはこれまでにないような新しい社会の文脈や視野が現れてきています。疑問に思った事象に潜む意味を探り、新しい視点を見つけ出しませんか。



どえ のぶたか

土江 伸誉 講師

doe@hyo-med.ac.jp

研究分野 精神活動 (実験心理学・学習心理学)

研究テーマ

ヒトや動物を対象とした実験的方法で、学習・記憶といった認知機能やうつをはじめとする精神疾患の発症メカニズムについて研究しています。また、遺伝と環境の相互作用によって個性(個体差)が生まれていく過程にも興味があります。

資格

- 博士(心理学)
- 関西学院大学大学院文学研究科 博士課程後期課程単位取得満期退学

・受験希望者へのメッセージ

健常者はもちろん、患者さんや様々な困難を抱える全ての"ヒト"の行動の原理や心のはたらきについて、科学的・実証的に研究してみたいという方の進学を期待しています。